

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/07/18号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

ドル一人勝ちにゴールドは1700ドルの攻防に

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



ドルの強さがより強調される一週間となりました。20年ぶりにユーロはドルとパーになり、円は一時139円台とまさにドルの一人勝ち。その結果ゴールドも同じくドルに頭を押さえられる展開となりました。

注目のCPIは9.1%と5月の8.6%、市場予想の8.8%をも大きく上回る1981年以来ほど41年ぶりの高い数字となりました。その結果ドルはさらに強くなりその一人勝ち状況はより鮮明となりました。ゴールドはかろうじて1700ドルをキープしましたが、今後もドル高が続くとすれば1700ドルも危うい状況になってきていると言えるでしょう。安全資産という本来ならゴールドの最も大きい魅力である部分がこの先も続く利上げを背景にドルに移ってしまっています。ゴールドはここ5週間連続で下げており、ここまでの下げはここ数年起こっていないことです。年初からの下げは7%になります。今回のこのCPIによって7月の利上げ幅は0.75%から1%という見方も強くなっており、このドル高はまだ続きそうです。同時に銅、原油、そして貴金属など商品が大きく下がっており、これはこのインフレに先にある不況に対する先行的な売りという側面があります。しかし現在のこの売りが果たしてファンダメンタルズを反映したものかといわれると大きなクエスチョンマークがあると思います。実際エネルギーとしての原油需要、銅やアルミの産業需要は全くだぶついている状況ではありません。脱化石燃料需要の反作用での燃料不足のため一日あたり百万バレルの不足の状況、アルミの米国、そして欧州でのプレミアムは史上最高レベルにあります。現在のコモディティ、すでに売られすぎのレベルにあり、おそらく長期的視点からはここは買いであったという風になるのではないのでしょうか。

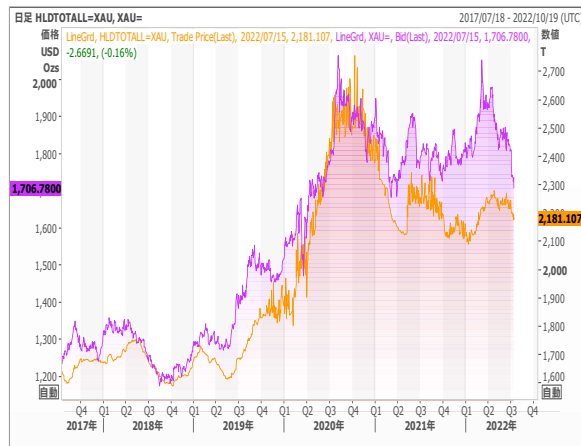
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【マーケット・トピック】

ゴールド以外の貴金属-PGM4

a. 鉱山生産（続き）

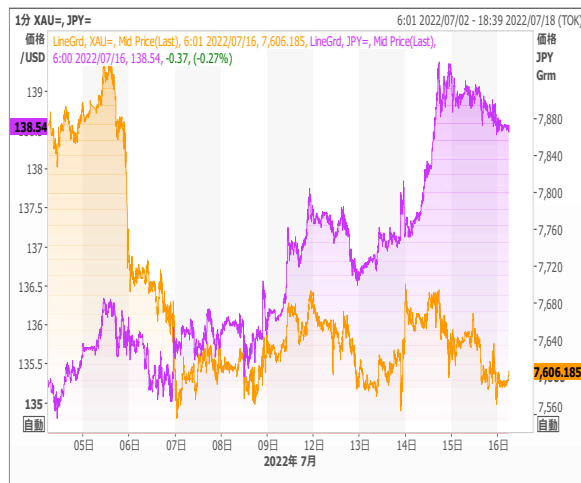
プラチナの鉱山生産の7割以上が南アフリカです。貴金属の中でももっともその存在が偏在しているのがプラチナです。ゴールドは世界中ほぼどこでも生産されています。昔戦国時代から江戸時代にかけては日本も世界で有数といっていた生産量がありました。佐渡金山や土肥金山は有名です。現在ではほぼ掘りつくしてしまいましたが、日本で唯一残っている金山は鹿児島県の菱刈金山だけです。1960-70年代はゴールドでも南アが年間1000トン以上掘っている年もあり、南アは圧倒的なシェアを持っていましたが、現在では100トン台と南アの生産量は激減し、圧倒的な産金国はありません。しかしプラチナは全く違います。昔から、現在もそして将来も南アが圧倒的なシェアを誇る状態は変わらないでしょう。その理由は、プラチナが存在する鉱脈は圧倒的にジンバブエも含めたこの地域に偏在しているからです。ほかの場所ではいくら努力しても掘ることはできません。存在しないのですから。プラチナは南ア、ジンバブエ、ロシアそして北米にしか存在しません。この偏在の理由は、プラチナをはじめとするPGMが隕石由来であるという説が有力です。PGMを含んだ巨大隕石が南ア、ロシアそして北米に落ちたのです。（南アに落ちた巨大な隕石の影響で恐竜が滅びたという説もあります。）ゴールドは多くの国で生産されるため、南アで何か起きてもほとんど反応しませんが、プラチナはやはりジンバブエと一緒にその生産シェアの8割を占める南アで、生産にかかわるような事件、電力問題や、労働争議などが起これば大きく反応します。安定した供給体制を誇るゴールドに対してプラチナの供給は南ア一国に頼る分、非常に不安定になる可能性が高いと言えます。そのため長期的にプラチナを使用する産業需要家は、基本的に生産者（南アの鉱山会社）と直接長期契約を結び安定供給を確保しています。鉱山会社もその供給責任のため、ある程度余裕をもって在庫を保持しています。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

